

平成 30 年度第 3 回高知県運輸業女性活躍推進実行委員会  
議 事 要 旨

日 時：平成 30 年 10 月 22 日（月）14 時～16 時

場 所：こうち男女共同参画センター「ソーレ」視聴覚室

1 開会

2 報告事項

(1) 平成 30 年度事業の実施状況について

(2) その他

〔各委員等からの意見〕

◆松山委員（一般社団法人 高知県バス協会）

- ・ イベントのアンケートの「職業を選ぶ際の条件」の項目は、選択肢の中に「職業の魅力」が入っていなかったのでは比較することはできないが、給与という選択が多かったのが意外だった。
- ・ 自分はラジオ番組でイベントの告知を多く聞いたが、アンケートを見るとチラシやポスターの効果があったので、告知を検討する必要がある。

◆森委員（高知労働局 職業安定部訓練室）

- ・ イベントに参加されている方にはドライバーという仕事が就職先の候補になっていることが分かったが、ドライバーという職種を否定されている方のイメージや意見を分析する必要がある。
- ・ イベントを知ったきっかけが、「チラシ・ポスター」という回答が多いが、今後は、それらをどこで見たのかも併せて聞くと良いと思う。

◆西村委員（一般社団法人 高知県トラック協会）

- ・ 愛知県やその近隣の県と合同で行われた運転体験イベントの参加者は 8 名だそうだが、高知県の西部で 4 名も来てくれた。イベントに来てくれた方々には、なんとかこの業界に来てもらいたい。
- ・ 参加者の方は真剣に話を聞かれており、運輸業への就職に対して前向きであると感じられた。

◆中島委員（株式会社 なかじま企画事務所）

- ・中部会場でのイベントは台風で中止となり残念だったが、四万十でこれだけの人数が集まったことは良かった。
- ・フリートークタイムやブースコーナーもあり、参加者の方が聞き役だけで終わっていなかったのも良い。
- ・座談会での女性ドライバーの様子が前向きで、楽しそうに仕事をしている様子が伝わってくるし、女性ドライバーのVTRも、ドライバーという職業が魅力的に映っており良い。
- ・しかし、実際にもっと女性ドライバーが働いている場面を頻繁に見ないと、女性がドライバーとして就職する、働くというイメージにつながらない。女性ドライバーという職業の認知度を上げることが大事。

◆岡村委員（高知県ハイヤー・タクシー協議会）

- ・四万十市のタクシー事業者の方に伺ったところ、このイベントのことを知らなかった。
- ・ラジオやチラシによるPRも積極的に行っていたが、地元のタクシー会社などが見ていなかったことを考えると、もっと告知できる機会があったのでは。事業者にもっと協力をお願いして、PRしてもらおうこともできると思う。
- ・もっとイベントでの成果を大々的にメディアで発表、告知をすべき。こういう成果があったことを一般の方に知っていただくことも大事。

◆吉田委員（NPO法人 キャリア・ライフ高知）

- ・団体にイベントにブース出展を行い、参加者の方から就職に関する相談を受けたが、相談者の方は、小さい頃からダンプを見て憧れていたとのことだった。子育てが少し落ち着いたので、チャレンジしたいと考えているようだが、異業種への就職に不安も感じており、特に出張や就業時間について気になっているようだった。
- ・バスドライバーのVTRは、思わず自分もバスの運転手になりたいと感じるVTRだった。もっとドライバーという仕事が身近に感じてもらえるようになればいい。

◆上戸委員（国土交通省 四国運輸局）

- ・実際にイベントに参加したが、特に車両の運転体験ではどの方も嬉々として乗車されている姿を見て、またこういうイベントがあればいいと感じた。
- ・周知方法については、今後また議論されていくだろうが、やはりまずは人の目に留まるようなものを期待する。目に留まらなければ、参加するかどうか以前にイベントがあるということを知ってもらえない。

◆小田副会長（こうち男女共同参画社会づくり財団）

- ・参加者の方の評判は良かったということで、口コミ等で広がり、運輸業に興味を持つ方が増えることを期待したい。
- ・何事もトップランナーは障害が大きい。このトップランナーを大切にしながら周知していくことが必要だ。
- ・プライバシーに配慮しながら、今後、イベントに参加された方の運輸業への就職に向けた動き等の追跡を行ってほしい。

◆中嶋アドバイザー（一般社団法人 女性バス運転手協会）

- ・参加された4名の方の追跡は運輸事業者がされるのか。  
→事務局回答：参加者の方が良ければ、求人情報等を事務局からメール等でお知らせしていきたいと考えている。
- ・実際に参加者の方がこの業界に入られたら、女性ドライバーのPRにご協力いただくことで、さらに女性ドライバーの普及につながるように活かしていけば良い。
- ・イベントの印象はすごく良かったと思う。やはり、実際に女性ドライバーが活躍されている姿を広報することが県民の方に刺さるのでは。
- ・イベントに参加された方については、良い距離を保ちながら、就業に促すことが大事。
- ・アンケートの、「職業を選択する際の条件」の項目に、「やりがい」や「人間関係」という項目を追記するべき。
- ・Webの検索では「ドライバー」とより、「運転手」という言葉の方が、検索数が多い。  
「ドライバー」に統一しているのはよく分かるし、今後その流れはどんどん普及していくべきだが、Webサイト「ドラ女子 Kochi」をまずたくさんの方に女性に見ていただくためには、「運転手」という言葉でも、検索した際に上位に出てくるようにするべき。
- ・チラシのデザインは目立つところに女性ドライバーの写真を入れるべき。  
その方が、女性も何のPRのチラシなのかがよく分かる。
- ・イベント告知には求人サイトなどは使用していないのか？  
→事務局回答：現状では使用していない。「高知求人ネット」でのイベント告知や、ジョブカフェ高知のメールマガジン等では告知を行った。
- ・「ドラ女子 Kochi」は、スマートフォンで見れる仕様になっているか。  
→委託事業者：レスポンス化に対応しており、スマートフォンでも見ることができる。

◆濱田会長（高知県 交通運輸政策課）

- ・今回のイベントは、参加人数は多いとはいわずらいものであったが、志望度も高く、運輸業への就職について前向きな方が参加され、アンケート結果を見ても、イベントでドライバーへのイメージが良いものになったとの回答があった。  
これで満足しすぎてはいけませんが、充実したものであったと言えると思う。

3 協議事項

(1) 平成 31 年度事業の検討状況について

[各委員等からの意見]

◆中島委員（株式会社 なかじま企画事務所）

- ・今年度のイベントに参加された方は、40 代以下であったことから、これからのターゲットは 40 代以下になると思う。40 代以下であれば、「ドラ女子 Kochi」もパソコンではなくスマートフォンで見られる。「ドラ女子 Kochi」はスマートフォンで見れるから良いと思うが、広報の方法を再検討する必要はあると思う。
- ・チラシの文言について、順番が違うと感じる。「高知県は女性ドライバーを応援しています」とあるが、県が応援している、と書いてあっても、本当に就職できると感じない。高知県バス協会やトラック協会、ハイヤータクシー協議会等の名前がないと、女性ドライバーを求めているという実感がなく、リアルさが感じられない。
- ・まずは、事業者への女性ドライバー採用の意識付けが一番。事業者が女性ドライバーを募集している旨をしっかり PR する。そういった採用情報を見た後で、女性ドライバーイベントの実施告知を見れば、女性も「女性ドライバーを求めているんだな」という実感が沸くと思う。
- ・今の時点で、「高知 女性ドライバー」で検索しても、なかなか採用情報が出てこない。事業者が、女性ドライバーを募集していることをもっと PR すべき。
- ・たとえば、バスやタクシーに乗ったとき、「当社は女性ドライバーを募集しています」というようなチラシやシールがいつも貼ってあれば、目にすることも多く、女性ドライバーを実際に募集しているということが伝わるのではないか。
- ・県が女性ドライバーの雇用促進を進めていることと、事業者が女性ドライバーを求めているということが結びつかなければ、実感が沸かないと思う。
- ・事業者の施設の整備への補助や取り組みは、まだ後でも良いと思う。

- ・人数は少なくとも、イベントに取材に来てもらって、臨場感を大事にして、やったことに対して取材をしてもらうことが大切。

◆上戸委員（国土交通省 四国運輸局）

- ・30年度のイベントの広報は、幅広い女性へのPRは十分されていたと思う。
- ・来年度は、ハローワークで仕事を求めている方が多い場所でのセミナーなど、自ら職を求めている方へのPRを強化していくべきであると思う。
- ・また、女性に限らずにはなるが、高校や中学等でのPRにも力を入れてみてはどうか。

◆濱田会長（高知県 交通運輸政策課）

- ・高校を回ってイベントのチラシを配布した印象は

→事務局回答：行く学校によってまちまちだった。進学校に行くと、なかなか就職する生徒は少ないということで、運輸業に興味を持ってもらえるかどうかは分からないという感触であった。

◆中島委員（株式会社 なかじま企画事務所）

- ・近頃はもう、中学生の時点で、どの大学に入ってどんな仕事をしたいのかということや、高校卒業後の就職先のことを考えていたりする。
- ・そのため、中学生の時点でドライバーという職種が選択肢の中に入っていないと難しい。中学までのイメージ広告が必要。高校からでは難しい。進学校の子はなおのこと難しいだろう。

◆濱田会長（高知県 交通運輸政策課）

- ・バス事業者が小学校へ出向いて実施している、バスの乗り方や公共交通の大切さ等を教える出前講座に同行し、ドライバーに対して良いイメージを持ってもらってはどうか。
- ・できるだけ、出前講座に参加するドライバーも、女性ドライバーに来てもらえれば、女の子もドライバーになれる、という印象を持ってもらえると思う。

◆小田副会長（こうち男女共同参画社会づくり財団）

- ・男女共同参画の視点から見れば、ドライバーが男女1：1になり、ドライバー不足も解消されるというのが理想であるが、その理想の社会に行くまでの道筋は大変であると思う。

- ・そのような理想に近づくため、ロードマップ（資料5）のように、まずは幅広い女性へのPRを実施することで運輸業へ興味を持ってもらうきっかけを作り、そして育てていくということで、委員会としての今後の流れはすっきりまとまっているという印象を受けた。

◆松山委員（一般社団法人 高知県バス協会）

- ・バス協会でも、女性はもちろん、男性も含めてドライバーの獲得に向けて取り組みは行っているが、本当に不足している状況。
- ・事業者への講演会については、例えば、事業者の自社のPRのノウハウ等も伝えてほしい。
- ・また、インターンシップを取り入れられないかと検討している。

◆西村委員（一般社団法人 高知県トラック協会）

- ・もっと、トラックの業界全体で求人をしていく必要がある。  
トラック協会では、ホームページを今年度中にリニューアルし、求人情報も載せていくように進めている。
- ・県には事業者の取組の応援や、事業者への意識付けをお願いしたい。
- ・ドライバー＝朝早くから夜遅くまで働いている、というイメージを持っている人も多いかもしれないが、そうではなく、働く人に合わせられるということを示せば、就職先の候補として選んでもらえるのでは。今回のイベントで参加者の話を聞いて、やはり就業時間の拘束を気にされる方が多いと感じた。そういったことをPRすることで、就業時間が限られてくる人の雇用につなげる。
- ・この業界を子どものときから選ぶということはなかなかない。この業界にどのように人を寄せるか、協会でも検討している。
- ・免許の助成についても、トラック協会で実施しており、来年度増額するか等の検討のもしているが、まずは何より、業界のイメージをどうやって変えていくかが課題であると思う。
- ・労働局でも、人材不足となっている、運輸・建設・警備業において、人材確保に向けて取り組んでいただいている（高知県人材確保対策推進協議会（建設・運輸・警備分野））。

◆岡村委員（高知県ハイヤー・タクシー協議会）

- ・高知市での女性ドライバーイベントを実施していない（台風により中止となったため）状態なので、高知市内でもぜひやってほしい。
- ・高知市で同じようなイベントを開催して、その結果をマスコミに大きく公表すべき。それを見て、意識が変わる人もいると思う。  
高知県のタクシー、ハイヤー、バス、トラックで宣伝してもらえば良い。

◆中嶋アドバイザー（一般社団法人 女性バス運転手協会）

- ・ドライバー求人のサイトを運営しているが、お問い合わせ窓口や、採用窓口の名前をシンプルにすることがポイントになる。簡単なことだが、これだけでも問い合わせが増える。
- ・問い合わせ窓口が難しい名前の部署だと、それだけで問い合わせをするのが億劫になる人は多い。
- ・また、スマートフォンが普及して個人間のやりとりが簡単にできるようになっている今、代表電話などでわざわざ取り次いでもらうのを嫌がる人も多い。直通、かつシンプルで分かりやすい窓口にすると、問い合わせが増える。
- ・チラシの中の問い合わせ先も、もう少し分かりやすくするか、「お気軽にご連絡ください」という文言を入れた方が良い。
- ・「ドラ女子 Kochi」においては、もっと事業者の情報を掲載しないと、採用情報が載っている会社以外は募集をしていないのではと勘違いしてしまうかもしれない。
- ・少なくとも各業界団体に入っている事業者の名前を掲載したり、採用ページを持っている会社のリンクを貼るなどして、一丸となって「女性ドライバーを募集している」ということをPR するべき。
- ・今後事業を実施していくにおいて、広報をメインにするのか、実際に就労につなげるのか、どちらをメインにして実施していくのかで、打ち出し方が変わってくる。
- ・転職したいけど、どんな仕事にしようかなと考えている人については、人材系の媒体を使った方が効果的であると思う。

◆西村委員（一般社団法人 高知県トラック協会）

- ・県内では、女性の事務職は大体どの会社も同じくらいの賃金である。稼ぎたいと考えている女性にとっては、ドライバーは、男性と同じくらいの賃金であるということは魅力的に映ると思う。

◆濱田会長（高知県 交通運輸政策課）

- ・ドライバーの給与というのは、統計では他の業種よりは少し低いですが、県内で見ると女性の平均給与よりも高い。

◆森委員（厚生労働省高知労働局 職業安定部訓練室）

- ・運輸業は、同一労働同一賃金の分かりやすい業種。これは運輸業の魅力であるので、積極的にアピールするべき。

◆中島委員（株式会社 なかじま企画事務所）

- ・現代の若い人は、「人の役に立つ」というような言葉が響く。  
少子高齢化社会において、トラックやバス、タクシーは地域を維持するために必要なインフラであるということを、もっと PR していくべき。地域を支えるというイメージが、ドライバーの印象を良くする。

◆中嶋アドバイザー（一般社団法人 女性バス運転手協会）

- ・ドライバーは、介護職からの転職も多い。「ありがとう」と言われることに喜びを感じる人が、ドライバーに転職してくることが多い。人の役に立つ部分をアピールするべき。

◆濱田会長（高知県 交通運輸政策課）

- ・広報をやっていくのか、就労につなげるのかというところは、まず来年度からは広報的な部分に比率を高めて事業を実施していき、徐々に実際の就業につながるものを実施していきたいと考えている。
- ・今回の会でもった意見を案に反映し、より良い事業を実施できるように努めていく。  
委員・アドバイザーの皆さんには、引き続きご協力をお願いしたい。

4 閉会

以上



出席状況

	所属・職・氏名	出席者
会 長	高知県中山間振興・交通部 交通運輸政策課長 濱 田 憲 司	○
副会長	こうち男女共同参画社会づくり財団 事務局長 小 田 優	○
委 員	一般社団法人高知県バス協会 専務理事 松 山 明 夫	○
委 員	一般社団法人高知県トラック協会 事務局長 西 村 伸 矢	○
委 員	高知県ハイヤー・タクシー協議会 専務理事 岡 村 泰 明	○
委 員	高知家の女性しごと応援室 チーフ 岩 井 契 子	欠席
委 員	国土交通省四国運輸局 高知運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画観光部門） 上 戸 康 弘	○
委 員	国土交通省四国運輸局 高知運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送・監査部門） 廣 田 敦	欠席
委 員	厚生労働省高知労働局 職業安定部訓練室 室長補佐 森 郁 雄	○
委 員	株式会社 なかじま企画事務所 代表取締役 中 島 和 代	○
委 員	NPO法人 キャリア・ライフ高知 キャリア・コンサルタント 吉 田 亜 矢 子	○
アドバイザー	一般社団法人 女性バス運転手協会 代表理事 中 嶋 美 恵	○